

比台風被災者1130万人

日本から医師や支援要員

【マニラ＝梁田真樹子】

フィリピン中部の台風被害で、国連人道問題調整事務所は12日、マニラで被災者が1130万人に上り、67

万人以上が避難生活を送っているとの推計値を発表した。台風の直撃から4日が過ぎ、被害はなお拡大している。一方、在マニラ日本大使館によると、被害の大きいレイテ島とサマル島の在留邦人133人のうち、12

日夕までに30人と連絡が取れた。同大使館では、残る約100人の安否確認を急いでいる。△関連記事7面▽

◇ 台風で大きな被害を受けたフィリピンの被災地を支援する動きが、西日本で広がっている。

岡山市の国際医療NGO「AMDA(アムダ)」は、10日に看護師1人を派遣した。レイテ島に隣接し、10

和歌山市の日赤和歌山医療センターも、13日に医師1人を派遣する。日本赤十字社の先遣隊のチームリーダーとして被災地のニーズ調査などを行う。

大阪府八尾市の国際NGO「日本国際飢餓対策機構」

は14日から、東日本大震災で活動経験があるスタッフら2人を派遣。汚水を浄化するフィルターなどを持参する予定で、「まずは飲料水の確保が重要。被害状況を把握し、具体的な支援を決めたい」としている。

神戸市のNPO法人「CODE海外災害援助市民センター」は近くスタッフ2人を現地へ派遣し、支援に向けて情報収集を始める。

英語やタガログ語などの通訳ができるボランティアも募集する。

福井県小浜市のフィリピン出身者でつくるボランティア団体「若狭フィリピンの会」は、被災者への支援募金を実施している。会員

らが勤める飲食店など6か所に惨状を伝える写真を貼った手作りの募金箱を置き、協力を呼びかけている。

自衛隊先遣隊出発

日本政府や国際機関によるフィリピンへの支援の動

きも本格化してきた。

小野寺防衛相は12日、国際緊急援助隊法に基づく行動命令を自衛隊に発出。自衛隊は現地で医療活動などにあたる50人の部隊を編成し、先遣隊2人が同日、マニラに向けて出発した。